

WEEKLY SIGNAL

2020年9月18日(金) 1542号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	9/21 (月)	9/22 (火)	9/23 (水)	9/24 (木)	9/25 (金)
無担保O/N	△ 0.087% ~ 0.001%				
銀行券			+ 800	+ 1,000	ト ン
財政他			+ 80,400	△ 1,000	△ 39,000
資金需給			+ 81,200	ト ン	△ 39,000
主な要因			国債償還 (5年、10年、変動15年、20年) 国庫短期証券発行・償還(3M・1Y)		国債発行(40年) 国庫短期証券発行(6M)
オペ期日	祝日(敬老の日)	祝日(秋分の日)	共通担保資金供給 △ 1,800 CP等買入 △ 900 国債補充供給 + 300		
オペスタート			共通担保資金供給 + 3,800		
(日本)				営業毎旬報告(9月20日現在) 月例経済報告(9月)	
(海外)			米 シカゴ連銀総裁講演 ユーロ圏 消費者信頼感指数(9月) 英中銀総裁講演	米 新規失業保険申請件数 (9月19日終了週) 米 シカゴ連銀総裁講演 英中銀総裁講演	米 耐久財受注(8月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 2M	0.000 ~ 0.040
SPOT 3M	0.000 ~ 0.070
SPOT 6M	0.000 ~ 0.130

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初456兆8,300億円から始まった。その後貸出増加支援オペや国庫短期証券買入オペ、国債買入オペを経て史上最大となる471兆3,000億円を越えた。

無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.072%で始まったものの15日には日銀当座預金残高の最終調整の調達ニーズが強く△0.052%まで上昇した。新積み期は、日銀の各種オペの利用により、マクロ加算残高が拡張した地銀業態を中心に調達ニーズが強く、△0.030%を中心とした出合い。一方、都銀・信託は△0.080%~△0.070%で調達していたため同金利は△0.056~△0.045%で推移した。

ターム物は、1~2W物で△0.040~△0.020%の出合が見られた。

日銀は16・17日開催した日銀金融政策決定会合で金融政策の現状維持を決定した。

来週の主な予定は9月の月例経済報告(24日)、海外では9月のユーロ圏総合PMI(23日)、EU臨時首脳会議(24・25日)がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.02 ~ 0.000
TDB 3M	△0.140 ~ △0.095
現先(on/1w)	△0.05 ~ 0.00

<C P>

今週の入札発行総額は約3,300億円で、週間償還額(約7,600億円)を下回った。発行市場は、中間期末の有利子負債の削減ニーズのため、期日償還が多くなったと思われ、週を通じて案件少なめで落ち着いた市場であった。

先週末の市場残高は25兆6,165億円であったが、17日時点では25兆6,916億円と、小幅に増加している。15日に、CP等買入オペが予定通り6,000億円でおfferされた。結果は、按分レート△0.058%・平均落札レート△0.039%と前回(按分レート△0.042%・平均落札レート△0.018%)比で低下した。

来週の週間償還額は、約1兆1,900億円となっている。営業日は3日と少ないが、5・10日発行が予定されるため、取引は活況が見込まれる。発行レートは、浅いマイナスから0%前後の出合いを予想するが、発行量の少ない銘柄ではやや強いマイナスレートでの発行が見込まれる。25日に、CP等買入オペが6,000億円おfferされる

<TDB>

16日の1Y937回債(9/21償還)の入札は、最高落札利回り△0.1365%(前回債△0.1308%)、平均落札利回り△0.1365%(同△0.1417%)となり、入札後△0.15%~△0.16%の出合が見られた。18日の3M938回債(12/21償還)の入札は、最高落札利回り△0.1045%(前回債△0.1102%)、平均落札利回り△0.1107%(同△0.1178%)となり、入札後△0.114%近傍の出合が見られた。そのほかセカンダリーでは3M936回債(12/14償還)が△0.117%~△0.12%のレンジ、6M935回債(3/10償還)が△0.157%~△0.158%の6M932回債(2/25償還)が△0.16%で取引された。

<レポ>

足許GC取引は、週初△0.09%~△0.085%の出合いから始まり、新積み期入り後も大きなレート変動はなく、△0.095%~△0.085%で推移。短国3Mの発行日となる24日受渡しについても、△0.095%~△0.085%での取引が中心であった。

SC取引は、10年358回債のレートが急低下する場面が見られた他、2年408~416回債、5年137~144回債、10年340~359回債、20年166~173回債、30年59~67回債、40年10~13回債等に引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。